



新宿区 高齢者の保健と福祉に関する調査 報告書

概要版

本調査は、令和3年度を初年度とする「新宿区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画(令和3年度～令和5年度)」の策定にあたり、区民の健康や日ごろの生活状態、介護保険サービスの利用状況や利用意向及びケアマネジャーや介護保険サービス事業所の実態を把握し、計画策定のための基礎資料とするものです。

令和2年3月

【調査の概要】

- 調査方法：郵送によるアンケート調査（お礼兼督促ハガキの発送1回）
- 調査期間：令和元年9月26日（木）～令和元年10月18日（金）
- 調査の種類等：6種類の調査を実施しました。

調査名	調査対象	調査対象数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者【基本】調査	要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者	3,000人	1,864人	62.1%
一般高齢者【重点】調査		3,000人	1,837人	61.2%
要支援・要介護認定者調査	要支援・要介護認定を受けている65歳以上の高齢者（施設サービス利用者を除く）	1,500人	837人	55.8%
第2号被保険者調査	要支援・要介護認定を受けていない第2号被保険者（40～64歳）	1,500人	540人	36.0%
ケアマネジャー調査	区内の居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー	210人	155人	73.8%
介護保険サービス事業所調査	区内の介護保険サービス事業所	221所	142所	64.3%

【概要版の見方】

- 図表中の「n」は回答者数で、比率（％）は、各選択肢の回答数を回答者総数で除したものです。小数第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合があります。複数回答できる質問では、合計が100%を超える場合があります。
- 場合によって、語句を短縮・簡略化している箇所があります。
- 見出しの表記 区民向け調査（【基本】：一般高齢者【基本】調査、【重点】：一般高齢者【重点】調査、【認定者】：要支援・要介護認定者調査、【第2号】：第2号被保険者調査）、事業所向け調査（【ケアマネ】：ケアマネジャー調査、【事業所】：介護保険サービス事業所調査）

令和3年度を初年度とする次期計画の策定に向けて、「健康づくりと介護予防について」、「地域の支え合いについて」、「認知症高齢者への支援について」、「高齢者総合相談センターについて」、「介護保険サービスについて」、「在宅療養支援について」、「高齢者の権利擁護について」の7つの視点から調査結果を抽出し、整理しました。

健康づくりと介護予防について

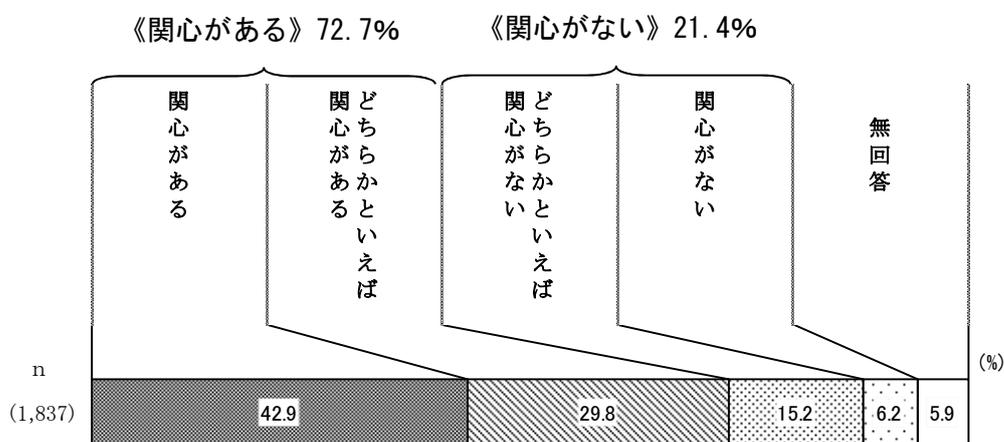
■ 区民向け調査結果 ■

<介護予防についての関心の有無> 【重点】問20

問 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。(1つに○)

◆ 介護予防についての関心は、《関心がある》が72.7%。

<図表 1> 介護予防についての関心の有無

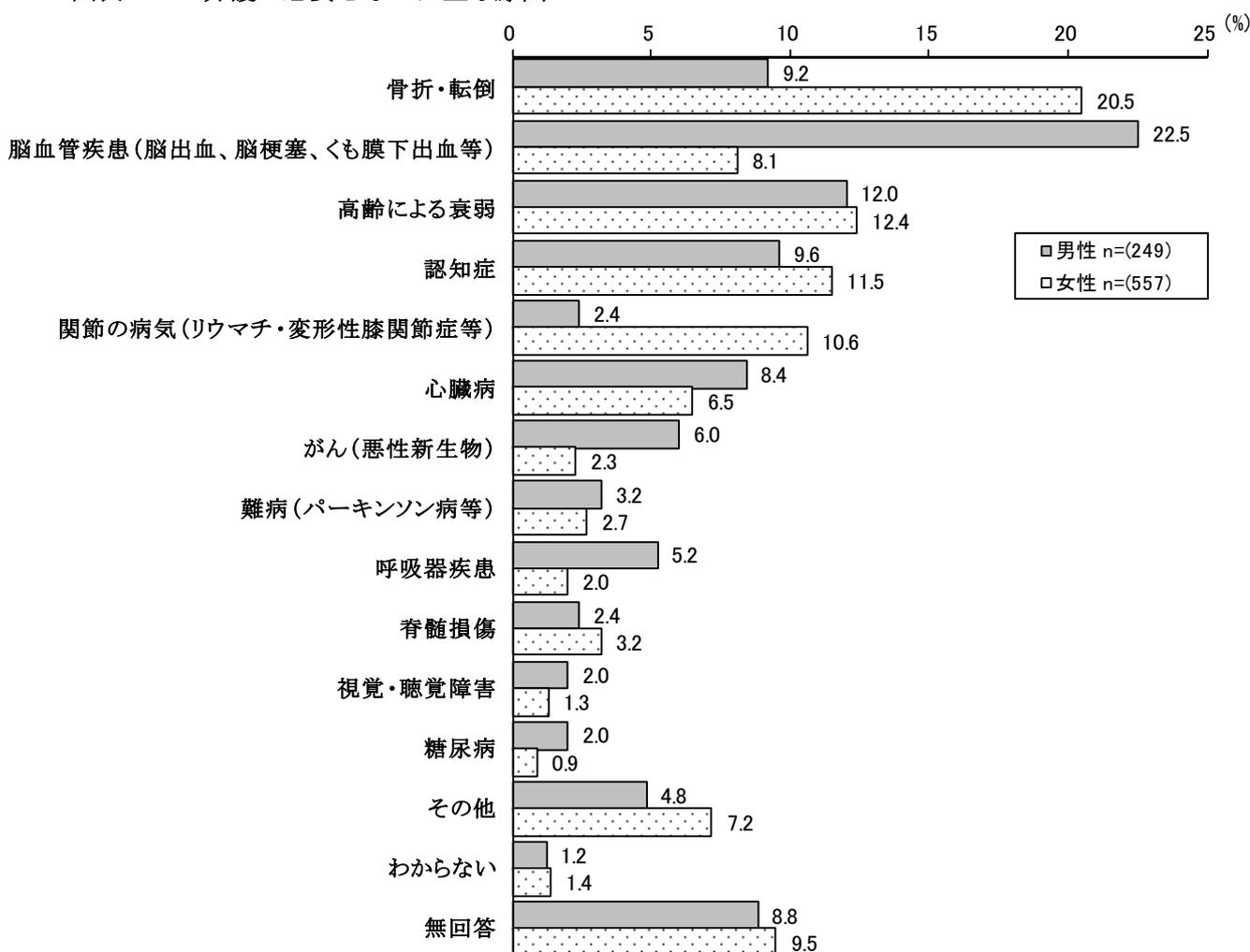


<介護が必要となった主な原因> 【認定者】問14

問 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。
(1つに○)

◆ 介護が必要となった主な原因について、性別にみると男性は《脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)》が22.5%で最も高い。女性は《骨折・転倒》が20.5%で最も高い。

<図表 2> 介護が必要となった主な原因

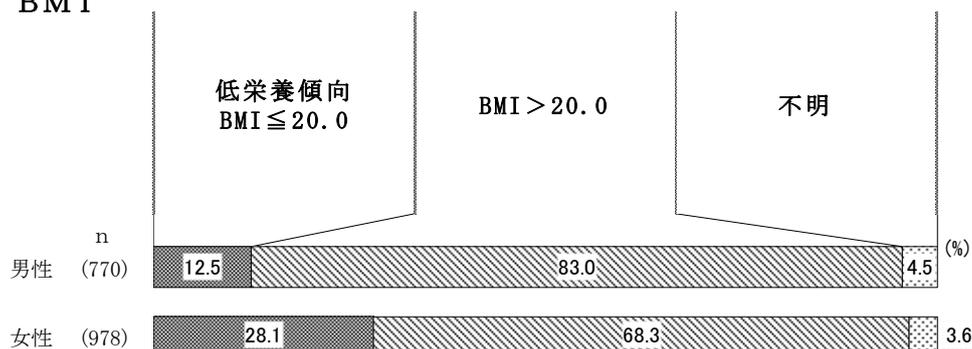


<身長と体重> 【重点】問10

問 あなたの身長と体重をご記入ください。※数字を記入してください

◆ 身長と体重により計算されるBMIについて、性別にみるとBMIが20.0以下の《低栄養傾向》は男性では12.5%、女性では28.1%。

<図表 3> BMI



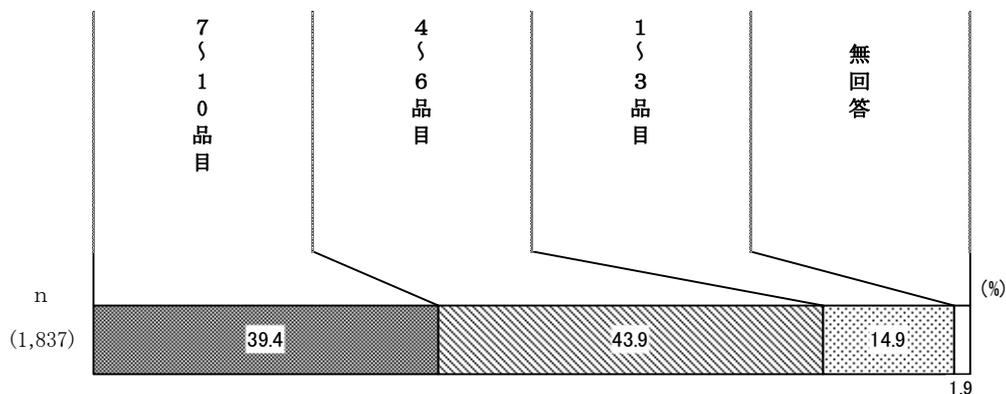
※BMIは体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))で算出される体重(体格)の指標である。

<昨日食べた食品> 【重点】 問11

問 あなたが昨日食べた食品は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ 昨日食べた食品の種類の数を見ると、《7～10品目》が39.4%。

<図表 4> 昨日食べた食品数

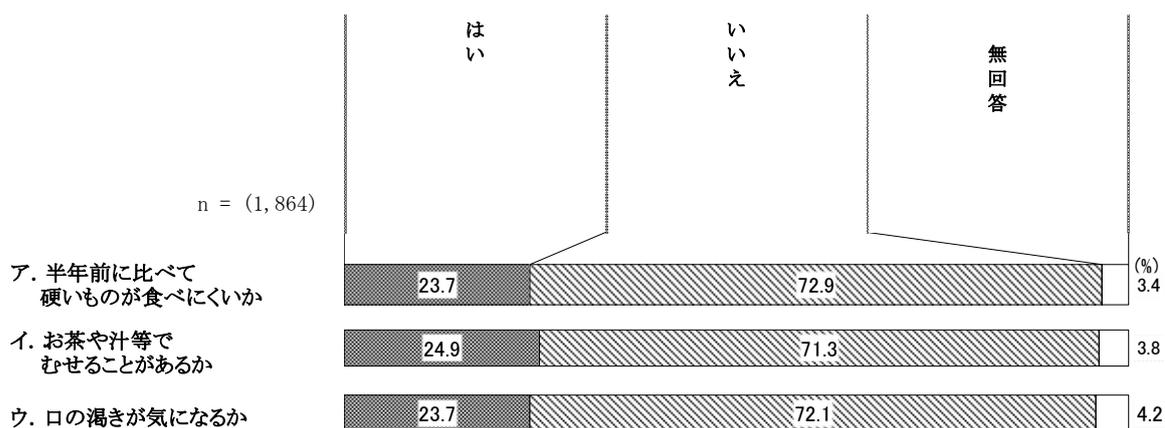


<食べる機能について> 【基本】 問24

問 あなたの食べる機能について、ア～ウのすべての質問にお答えください。(それぞれ1つに○)

◆ 食べる機能について、《はい》は「半年前に比べて硬いものが食べにくい」が23.7%、「お茶や汁等でむせることがある」が24.9%、「口の渇きが気になる」が23.7%。

<図表 5> 食べる機能について



<日常生活であてはまること>【重点】問18

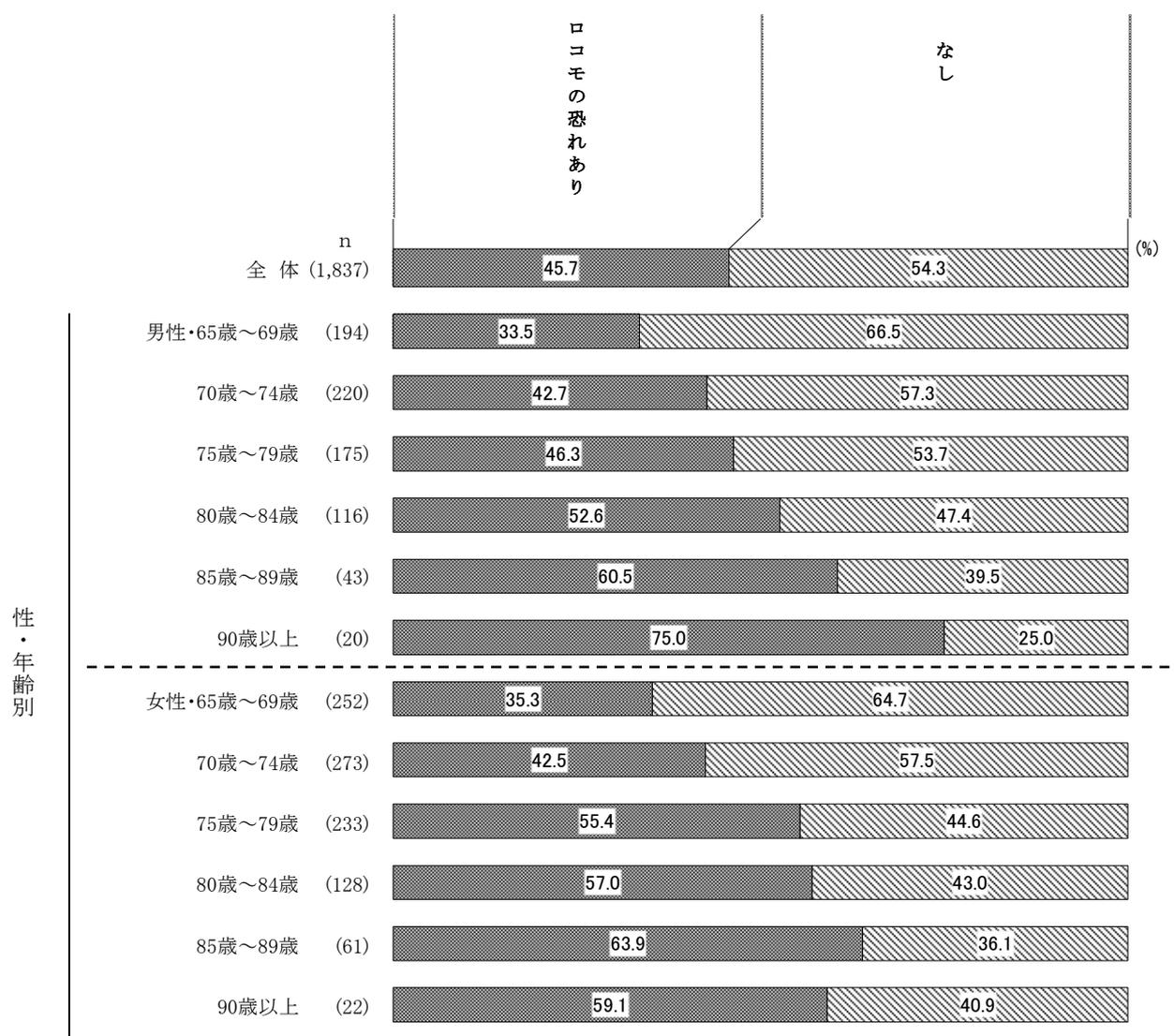
問 あなたは、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【ロコチェック】(下記の7項目のうち、1つ以上回答した方を《ロコモの恐れあり》で集計)

1. 家の中でつまずいたり滑ったりする
2. 階段を上るのに手すりが必要である
3. 15分くらい続けて歩くことができない
4. 横断歩道を青信号で渡りきれない
5. 片足立ちで靴下がはけない
6. 2kg程度(1リットルの牛乳パック2個程度)の買い物をして持ち帰るのが困難である
7. 家のやや重い仕事(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)が困難である

◆ ロコチェックの7項目に1つ以上回答した方を《ロコモの恐れあり》として集計すると、《ロコモの恐れあり》は45.7%。性・年齢別でみると、《ロコモの恐れあり》は、年齢が上がるほど、高い傾向にある。

<図表 6> ロコモの恐れあり

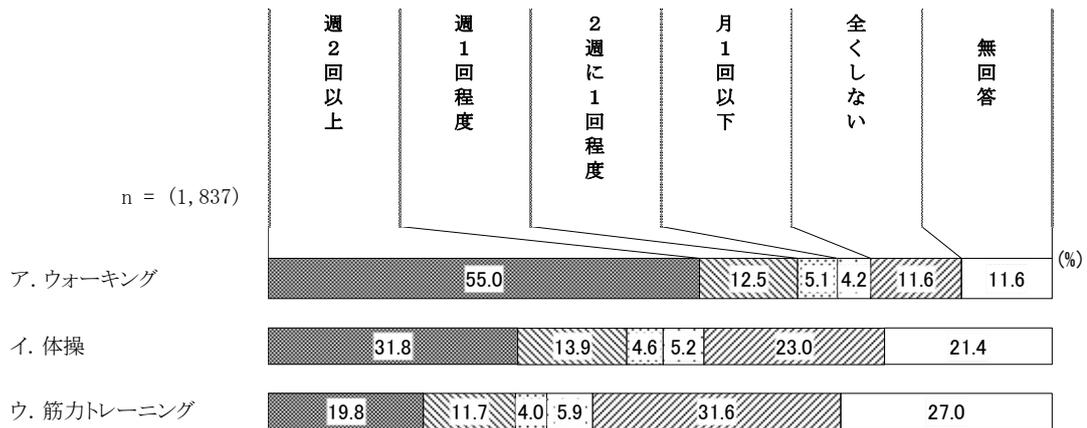


<運動の頻度> 【重点】問17

問 あなたは以下の運動（ウォーキング、体操、筋力トレーニング）を、どれくらいの頻度でしていますか。（それぞれ1つに○）

◆ 運動の頻度をみると、「ウォーキング」は《週2回以上》が55.0%で最も高い。「体操」は《週2回以上》が31.8%で最も高い。「筋力トレーニング」は《全くしない》が31.6%で最も高い。

<図表 7> 運動の頻度

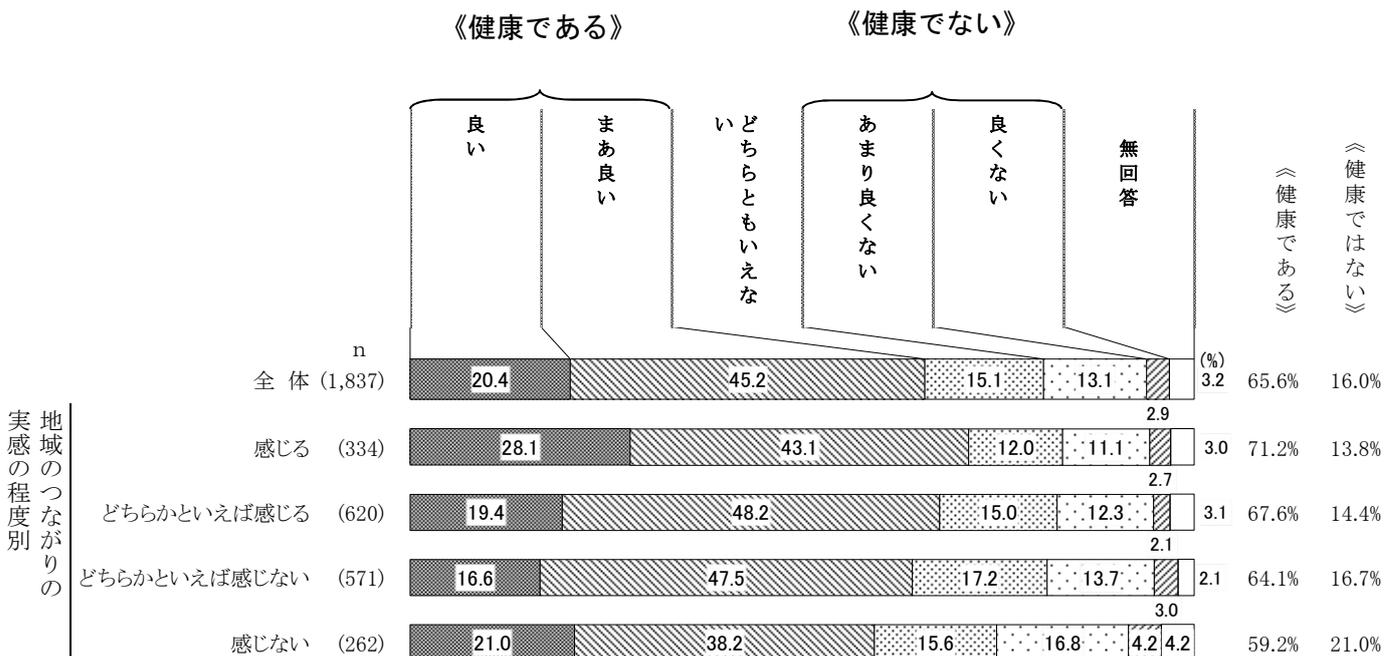


<健康状態> 【重点】問9

問 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。（1つに○）

◆ 健康状態について、地域のつながりの実感の程度別にみると、《健康である》は、地域のつながりを実感している人ほど高い。

<図表 8> 健康状態



地域の支え合いについて

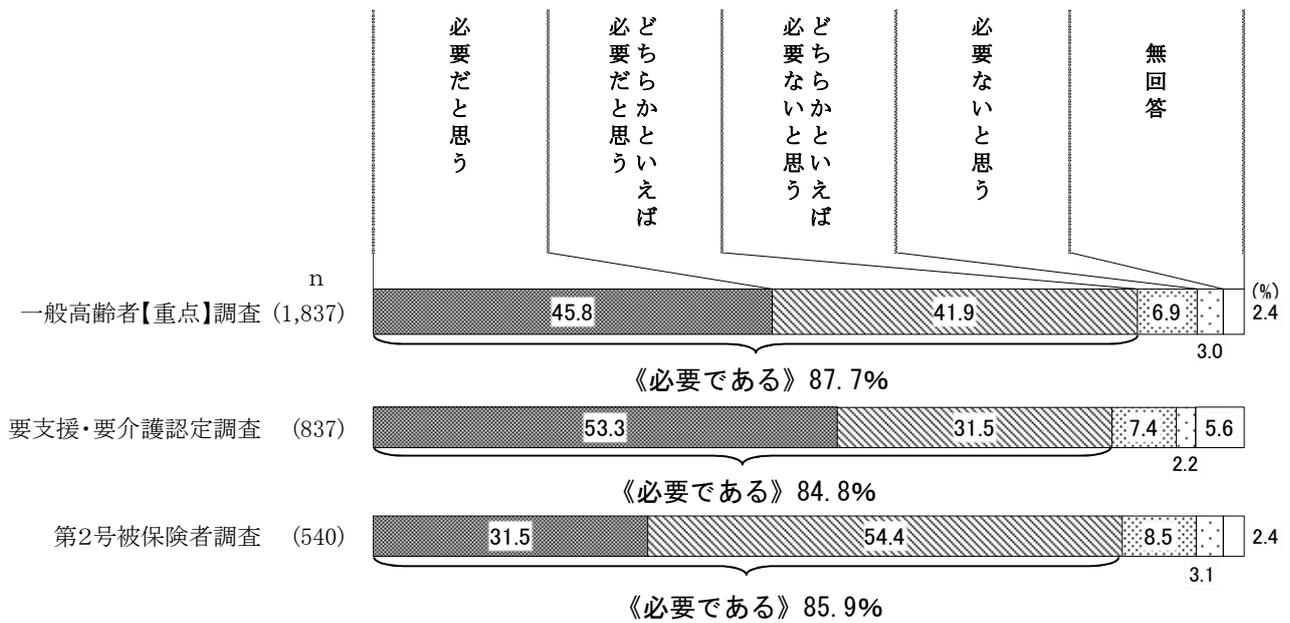
■ 区民向け調査結果 ■

＜地域のつながりの必要性と実感＞ 【重点】問28、【認定者】問12、【第2号】問16

問 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（それぞれ1つに○）

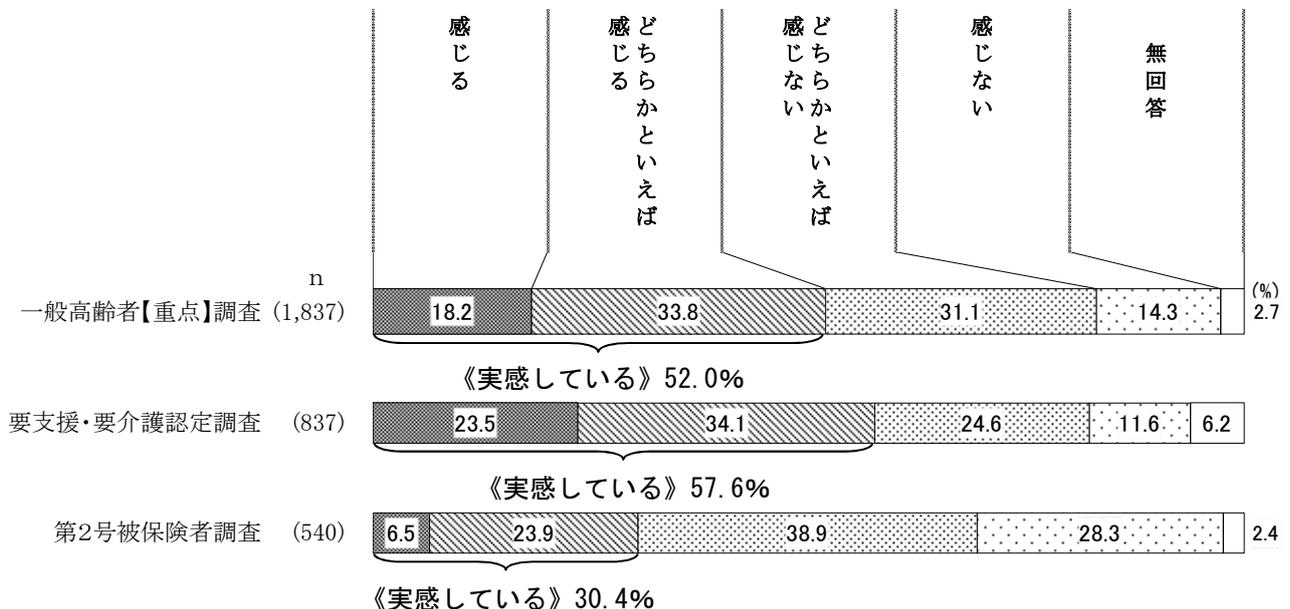
◆ **調査間比較：地域のつながりの必要性について、《必要だと思う》《どちらかといえば必要だと思う》をあわせた《必要である》は、一般高齢者【重点】が87.7%、要支援・要介護認定者が84.8%、第2号被保険者が85.9%。**

＜図表 9＞ 地域のつながりの必要性



◆ **調査間比較：地域のつながりの実感について、《感じる》《どちらかといえば感じる》をあわせた《実感している》は、一般高齢者【重点】が52.0%、要支援・要介護認定者が57.6%、第2号被保険者が30.4%。**

＜図表 10＞ 地域のつながりの実感

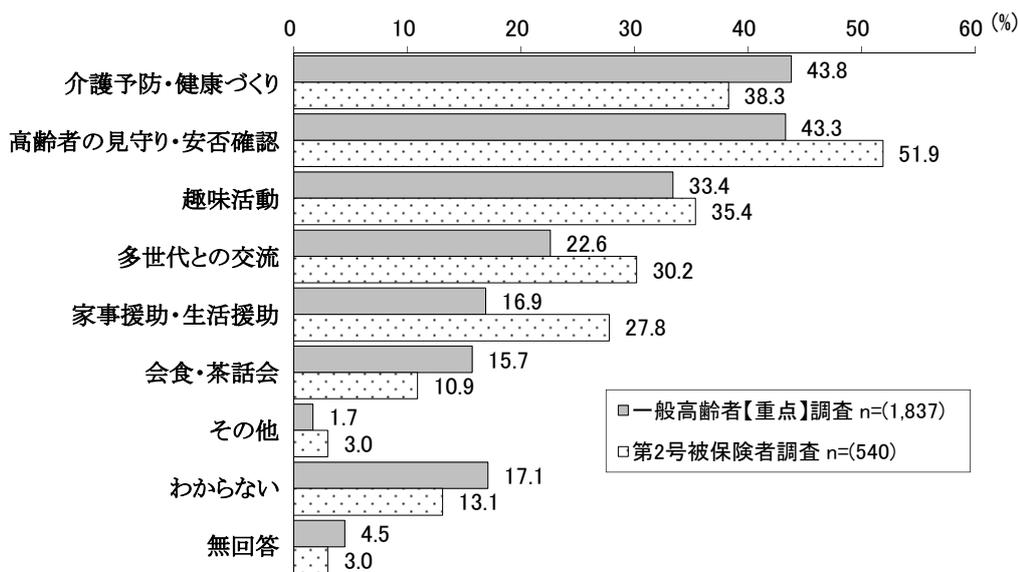


<あればよいと思う地域支え合い活動の内容> 【重点】問30、【第2号】問17

問 あなたは、どのような住民主体の地域支え合い活動があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

◆ 調査間比較：あればよいと思う地域支え合い活動の内容について、一般高齢者【重点】は、《介護予防・健康づくり》が43.8%で高い。第2号被保険者は《高齢者の見守り・安否確認》が51.9%で高い。

<図表 11> あればよいと思う地域支え合い活動の内容

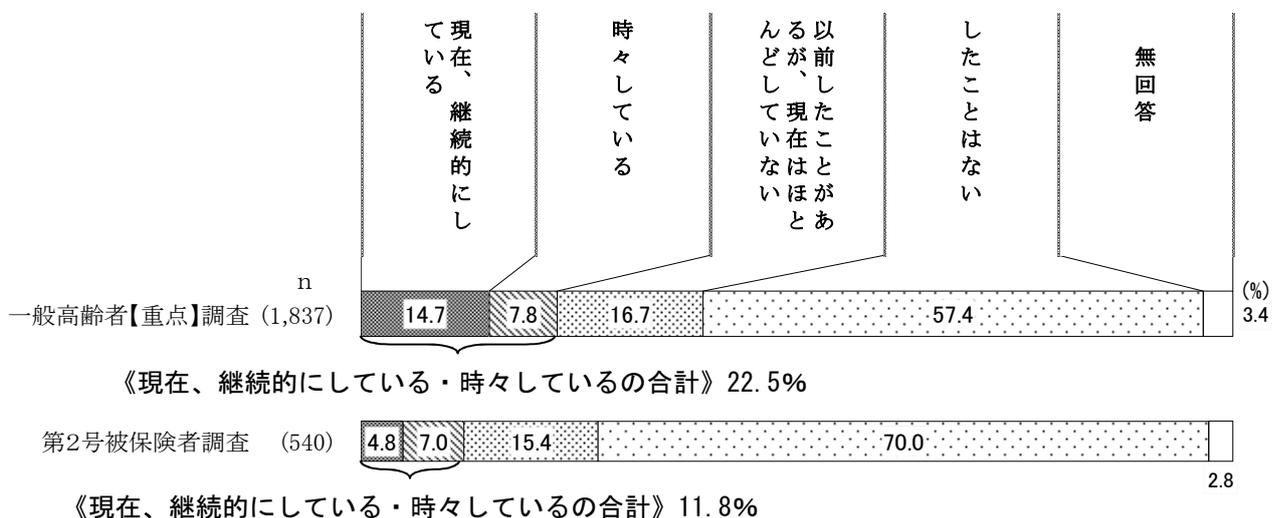


<地域活動やボランティア活動等の状況> 【重点】問26、【第2号】問19

問 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子ども会など、以下同様）やボランティア活動等を行っていますか。（1つに○）

◆ 調査間比較：地域活動やボランティア活動等の状況について、《現在、継続的にしている》と《時々している》の計は、一般高齢者【重点】が22.5%、第2号被保険者が11.8%。

<図表 12> 地域活動やボランティア活動等の状況

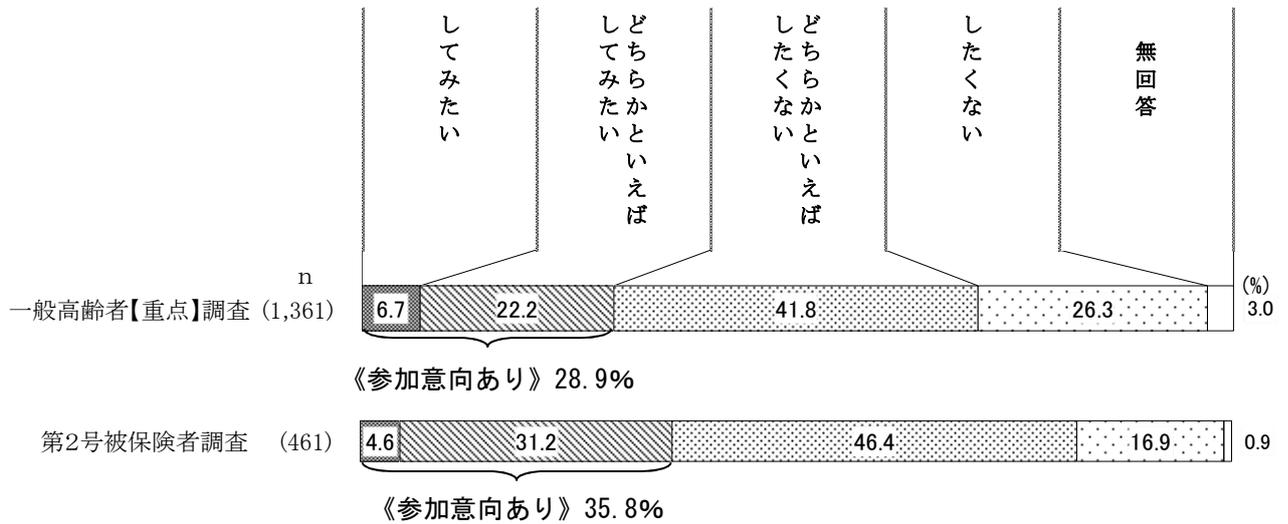


<今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向> 【重点】問26（1）、【第2号】問19（1）

問 <前問で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」を選んだ方のみお答えください>
あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。（1つに○）

◆ **調査間比較：今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向について、《してみたい》《どちらかといえばしてみたい》をあわせた《参加意向あり》は、一般高齢者【重点】が28.9%、第2号被保険者が35.8%。**

<図表 13> 今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向



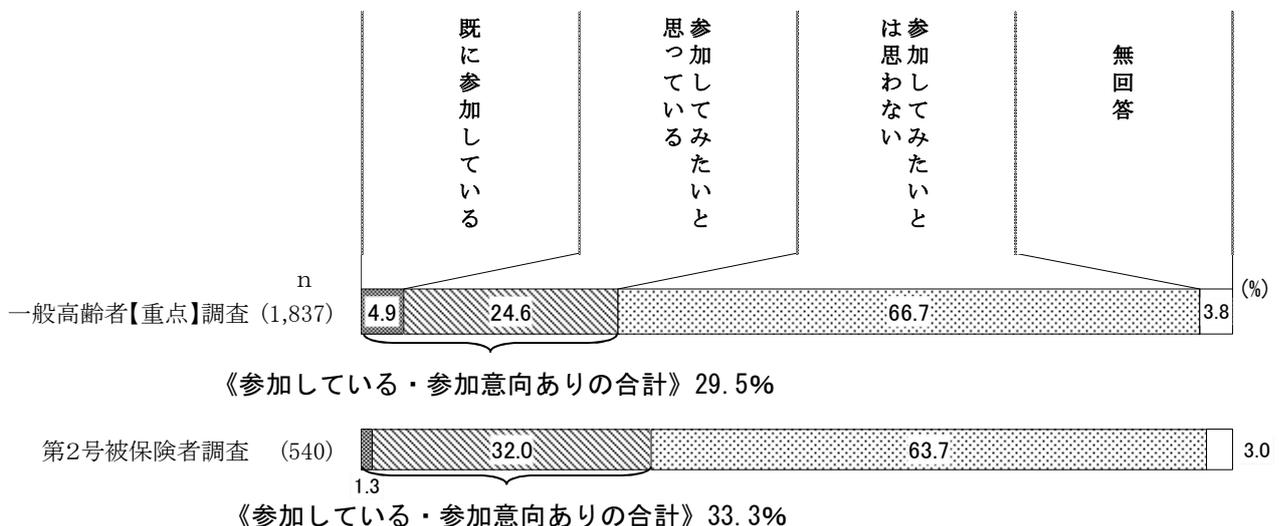
<高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向>

【重点】問32、【第2号】問21

問 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動に機会があれば参加してみたいですか。（1つに○）

◆ **調査間比較：高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向について、《既に参加している》と《参加してみたいと思っている》の計は、一般高齢者【重点】は29.5%、第2号被保険者は33.3%。**

<図表 14> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向



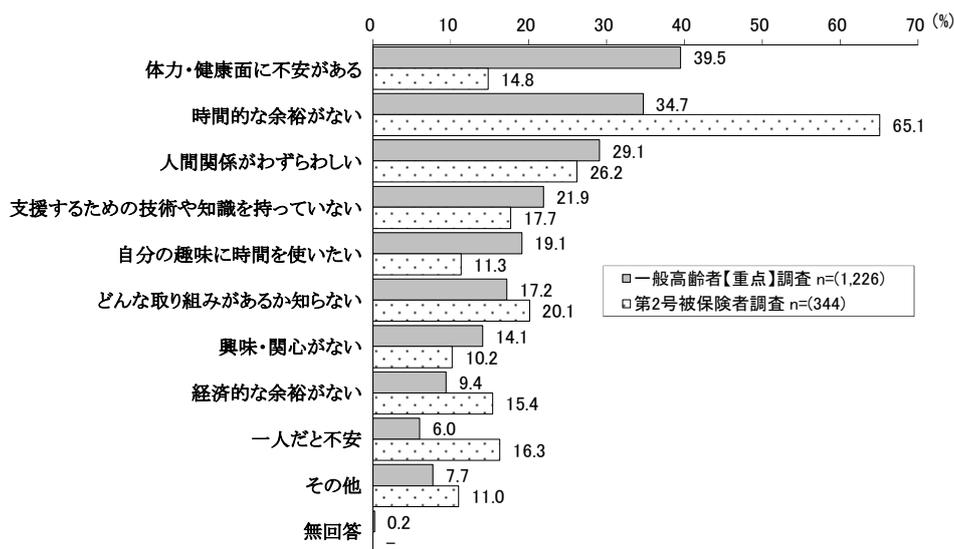
<高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動に参加したくない理由>

【重点】問32（1）、【第2号】問21（1）

問 <<前問で《参加してみたいとは思わない》を選んだ方のみお答えください>>
それはどうしてですか。（あてはまるものすべてに○）

◆ 調査間比較：高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動に参加したくない理由について、一般高齢者【重点】は、《体力・健康面に不安がある》が39.5%で高い。第2号被保険者は《時間的な余裕がない》が65.1%で高い。

<図表 15> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動に参加したくない理由

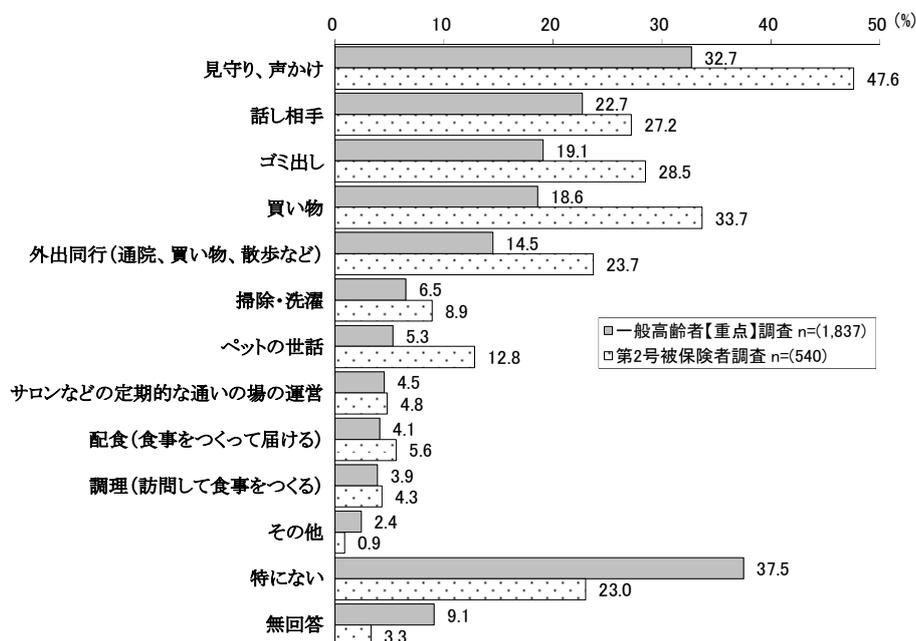


<自分が担うことができそうな支援・サービス> 【重点】問34、【第2号】問23

問 支援を必要とする地域の高齢者の身の周りの世話や生活を支援するボランティア活動として、あなたが担うことのできそうな支援・サービス（現在支援しているものを含む）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

◆ 調査間比較：自分が担うことができそうな支援・サービスについて、一般高齢者【重点】、第2号被保険者とも《見守り、声かけ》が最も高い。（《特にない》を除く）。

<図表 16> 担うことができそうな支援・サービス



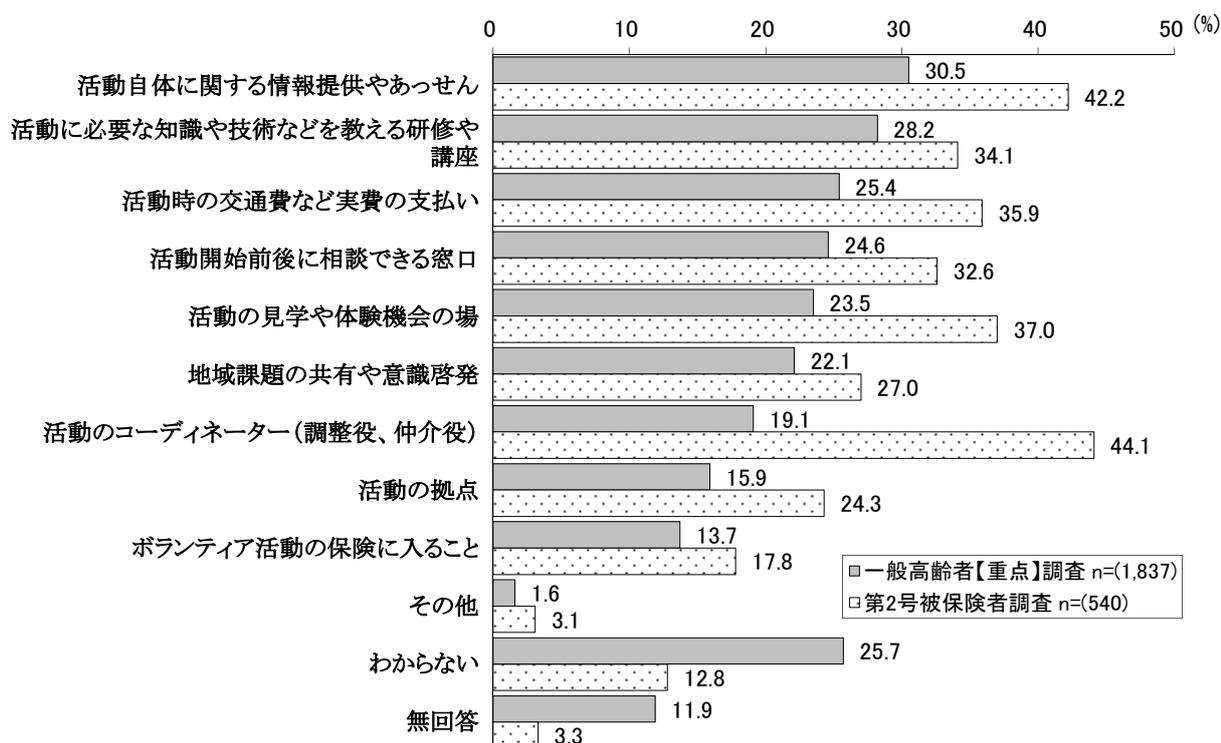
<高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために必要なサポート>

【重点】問35、【第2号】問24

問 あなたは、支援を必要とする高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために、どのようなサポートが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

◆ **調査間比較：高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために必要なサポートについて、一般高齢者【重点】は、《活動自体に関する情報提供やあっせん》が30.5%で高い。第2号被保険者は、《活動のコーディネーター（調整役、仲介役）》が44.1%で高い。**

<図表 17> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために必要なサポート



認知症高齢者への支援について

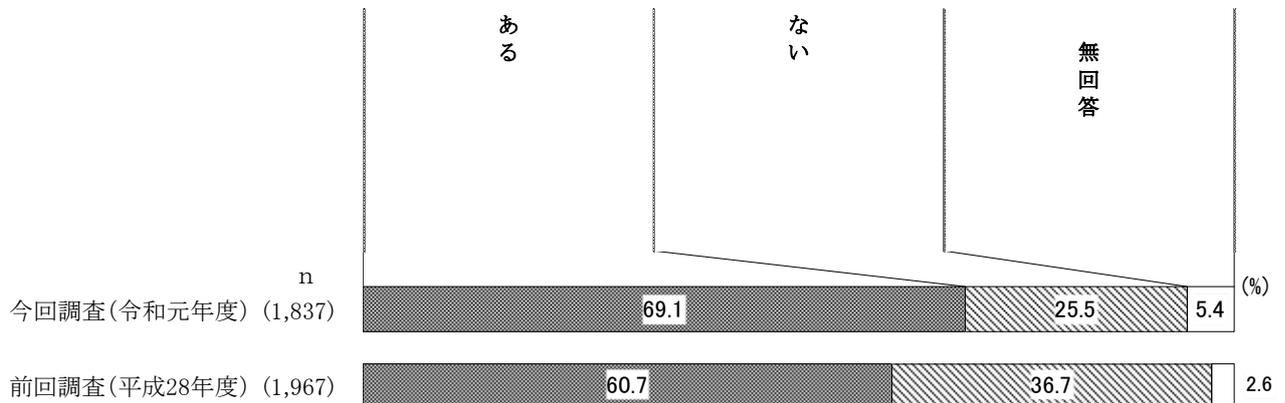
■ 区民向け調査結果 ■

<自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことの有無> 【重点】問41

問 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。(1つに○)

◆ 経年比較：自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことは、《ある》が、前回調査（平成28年度）と比べて8.4ポイント上回っている。

<図表 18> 自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことの有無

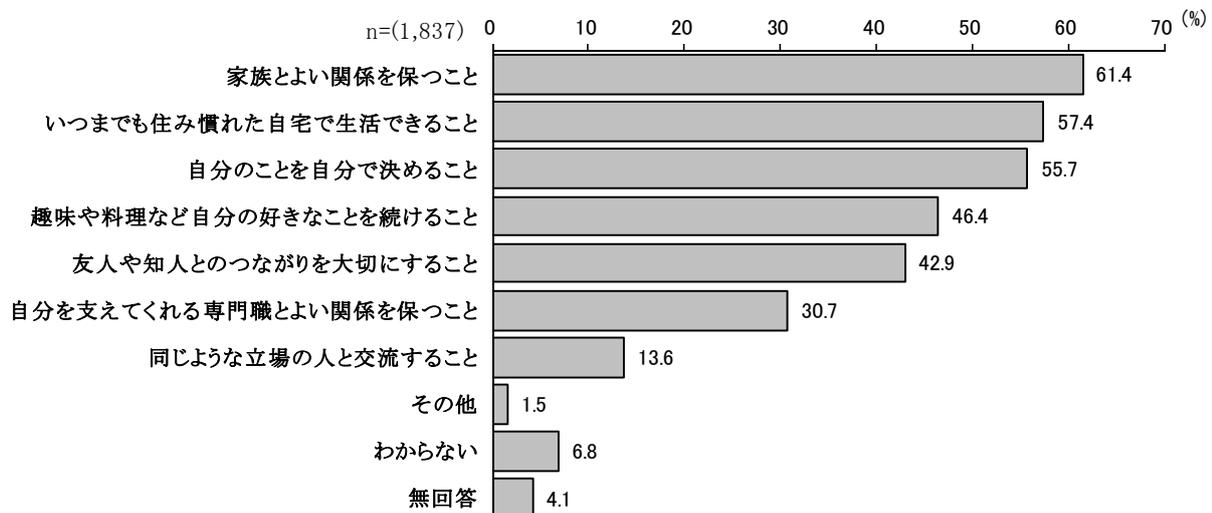


<自身が認知症になっても大切にしたいこと> 【重点】問42

問 あなたが認知症になっても大切にしたいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ 自身が認知症になっても大切にしたいことについて、《家族とよい関係を保つこと》が61.4%で最も高い。

<図表 19> 自身が認知症になっても大切にしたいこと

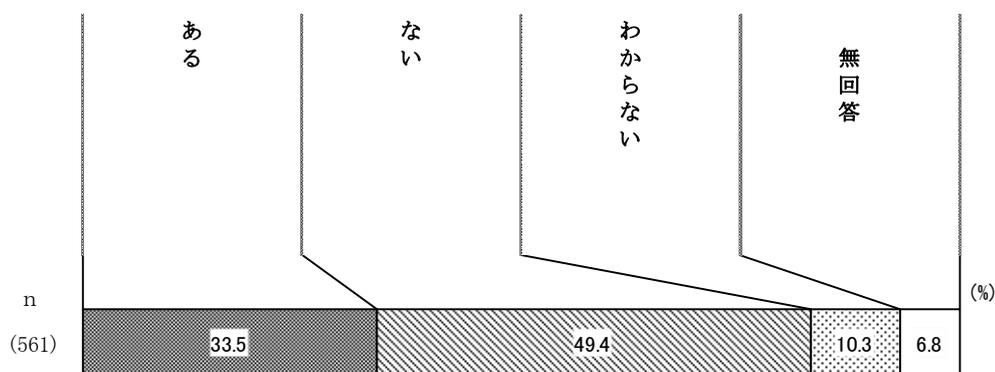


<認知症の症状の有無> 【認定者】問57

問 あなたが介護をしている方(宛名のご本人)には、認知症の症状がありますか。
(1つに○)

◆ 介護をしている方の認知症の症状の有無について、《ある》は33.5%、《ない》は49.4%。

<図表 20> 認知症の症状の有無

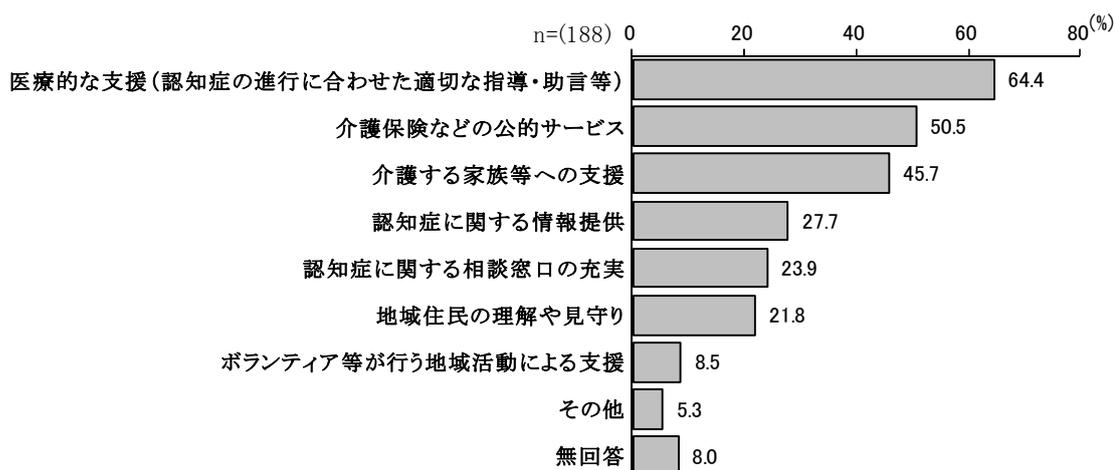


<認知症の介護で必要と思うこと> 【認定者】問57-2

問 <<前問で《ある》を選んだ方のみお答えください>>
認知症のご本人の介護において、必要と思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ 認知症の介護で必要と思うことについて、《医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)》が64.4%で最も高い。

<図表 21> 認知症の介護で必要と思うこと



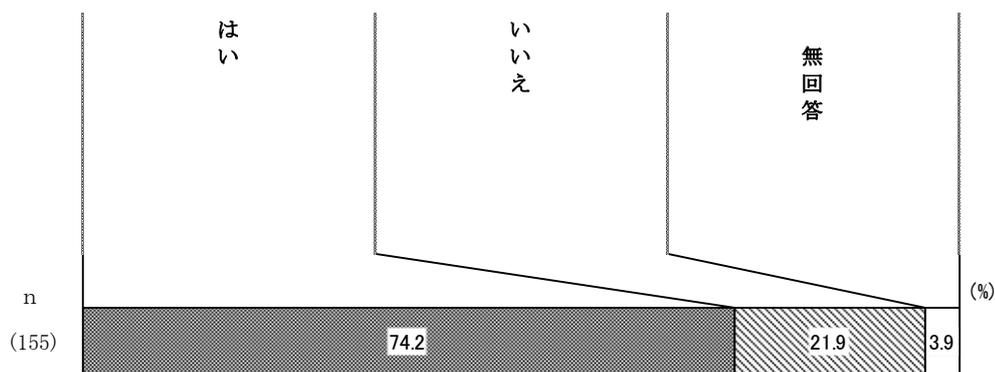
■事業所向け調査結果■

＜認知症に関して相談のできる機関の有無＞【ケアマネ】問26

問 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(○は1つ)

◆ 認知症に関して相談のできる機関の有無について、《ある》は74.2%。

＜図表 22＞ 認知症に関して相談のできる機関の有無

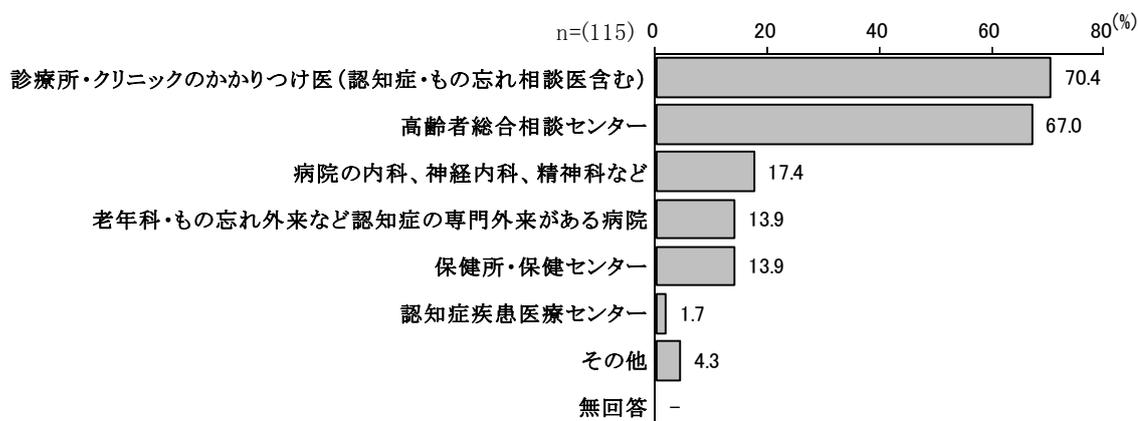


＜認知症に関する相談先＞【ケアマネ】問26-1

問 《前問で《はい》を選んだ方のみお答えください》
どちらに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

◆ 認知症に関する相談先について、《診療所・クリニックのかかりつけ医(認知症・もの忘れ相談医含む)》が70.4%で最も高い。

＜図表 23＞ 認知症に関する相談先



高齢者総合相談センターについて

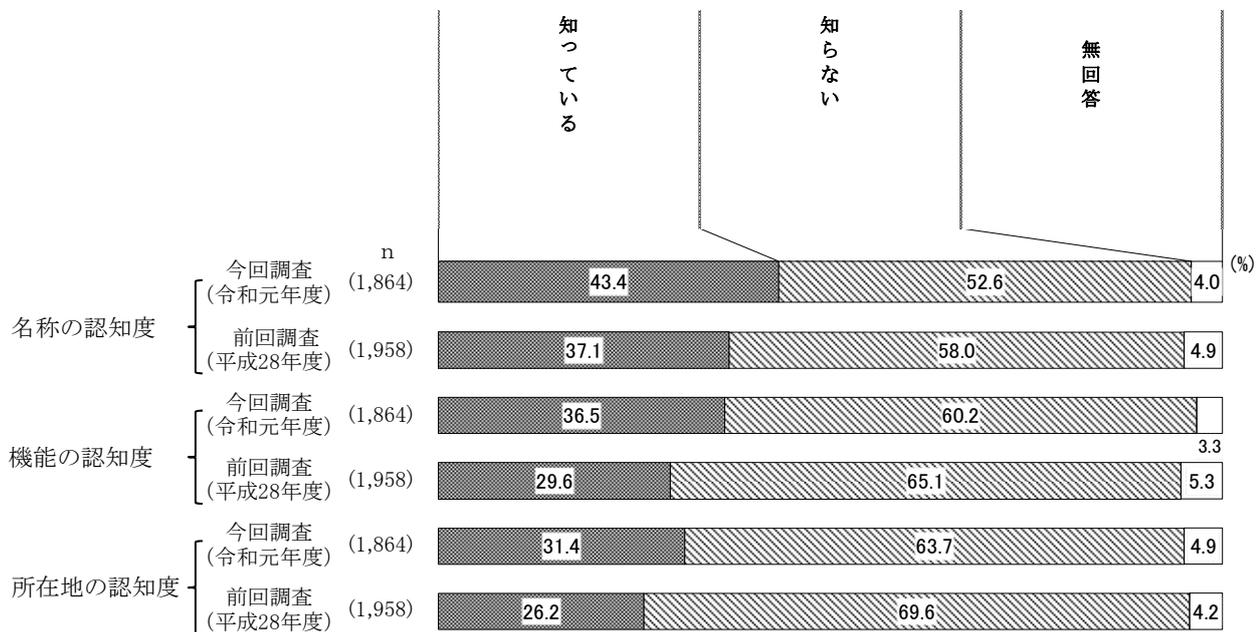
■ 区民向け調査結果 ■

＜高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度＞【基本】問36～38

- 問 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)
 問 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)
 問 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

◆ 経年比較：高齢者総合相談センターの機能の認知度で《知っている》は前回調査(平成28年度)と比べて6.9ポイント上回る状況。

＜図表 24＞ 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度



介護保険サービスについて

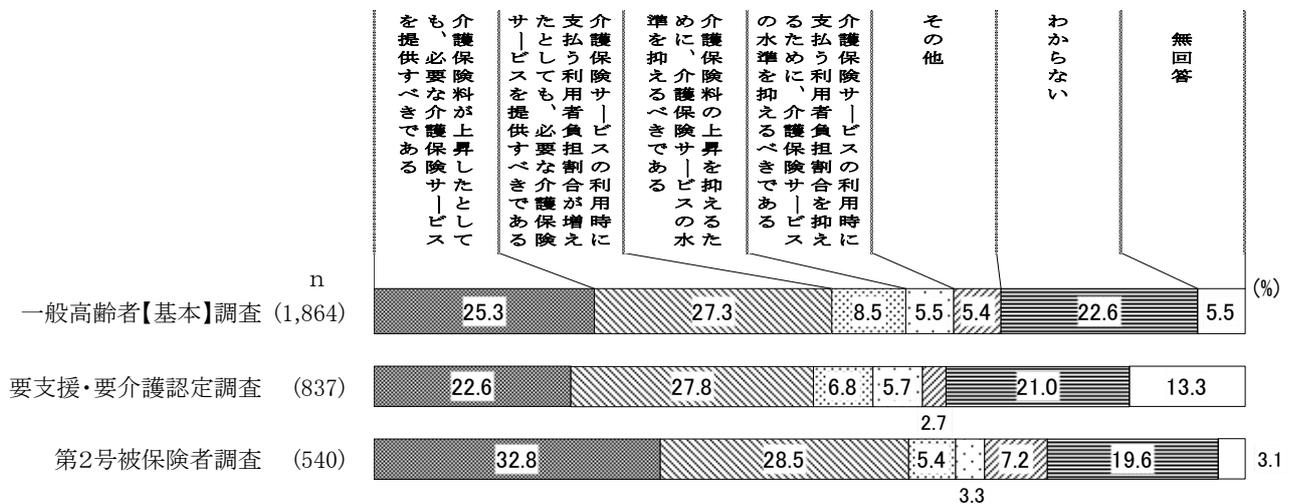
■区民向け調査結果■

＜介護保険のサービスと費用負担＞【基本】問29、【認定者】問26、【第2号】問39

問 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（1つに○）

◆ **調査間比較：介護保険のサービスと費用負担について、《介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである》は、第2号被保険者が32.8%で最も高い。**

＜図表 25＞ 介護保険のサービスと費用負担

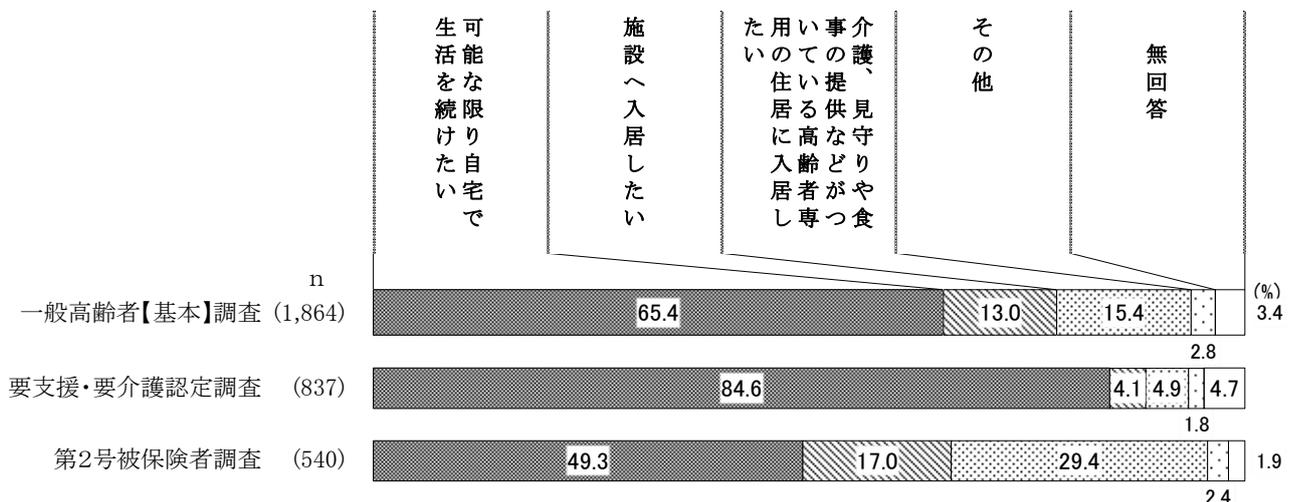


＜介護が必要になった場合の生活場所＞【基本】問13、【認定者】問10、【第2号】問28

問 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。（1つに○）

◆ **調査間比較：介護が必要になった場合の生活場所について、《可能な限り自宅で生活を続けたい》は、要支援・要介護認定者が84.6%で最も高い。**

＜図表 26＞ 介護が必要になった場合の生活場所



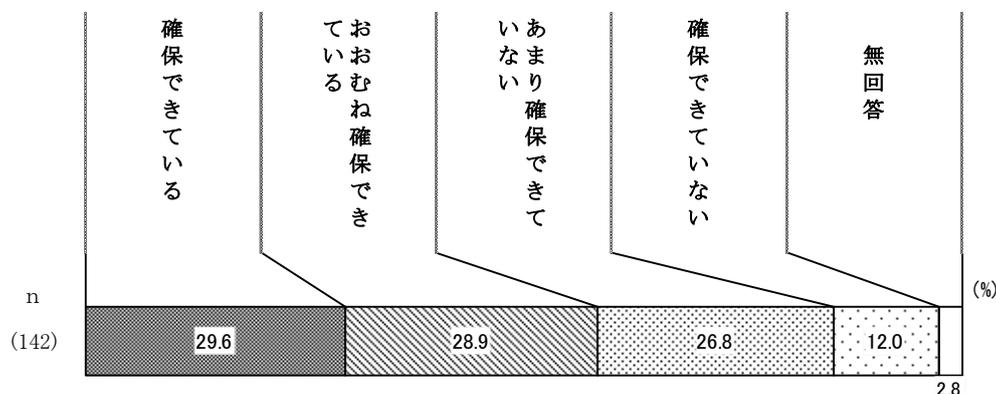
■事業所向け調査結果■

<人材の確保の状況>【事業所】問10

問 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうか。(1つに○)

◆ 人材の確保の状況について、《確保できている》が29.6%、《おおむね確保できている》が28.9%。

<図表 27> 人材の確保の状況

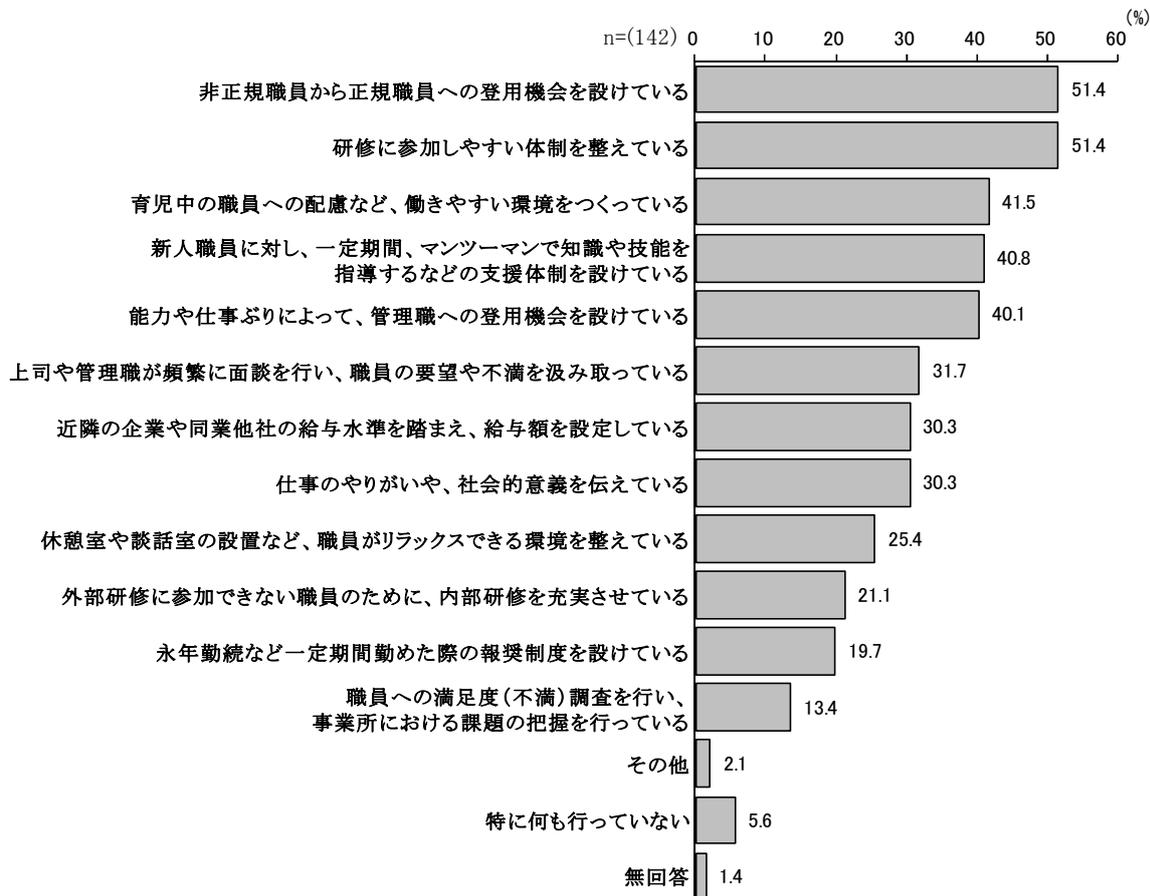


<人材の定着・育成の取り組み>【事業所】問13

問 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。また差し支えなければ、特徴的な取り組みについて、お聞かせください。
(あてはまるものすべてに○)

◆ 人材の定着・育成の取り組みについて、《非正規職員から正規職員への登用機会を設けている》及び《研修に参加しやすい体制を整えている》がともに51.4%で最も高い。

<図表 28> 人材の定着・育成の取り組み



在宅療養支援について

■区民向け調査結果■

＜人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験＞

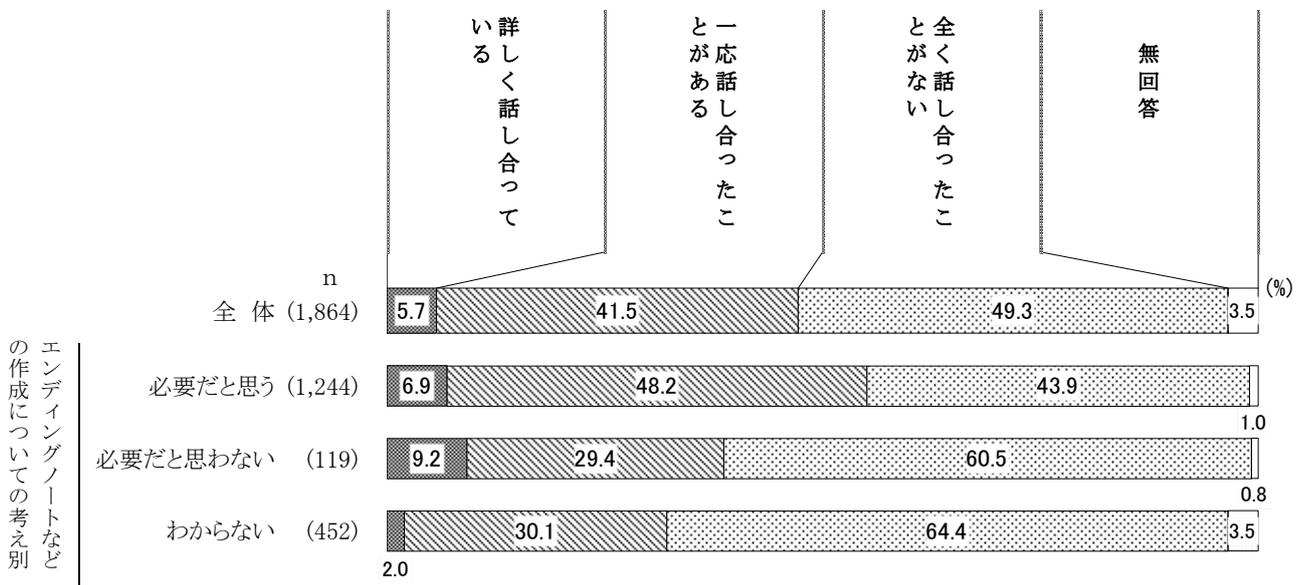
【基本】問17×問18、【認定者】問31×問32、【第2号】問33×問34

問 あなたは、人生の最終段階において受たい医療や受たくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

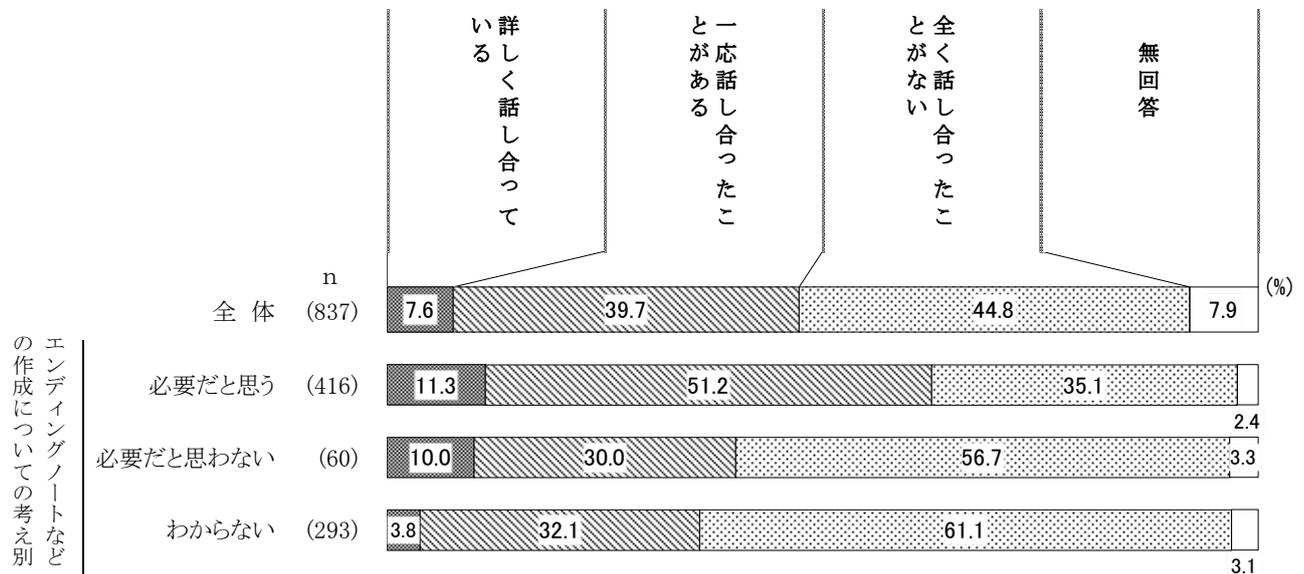
◆ 調査間比較：人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験と、エンディングノートなどの作成についての考え別にみると、「必要だと思う」人のうち《全く話し合ったことがない》人は第2号被保険者が62.4%で最も高い。

＜図表 29＞ 人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験

【基本】

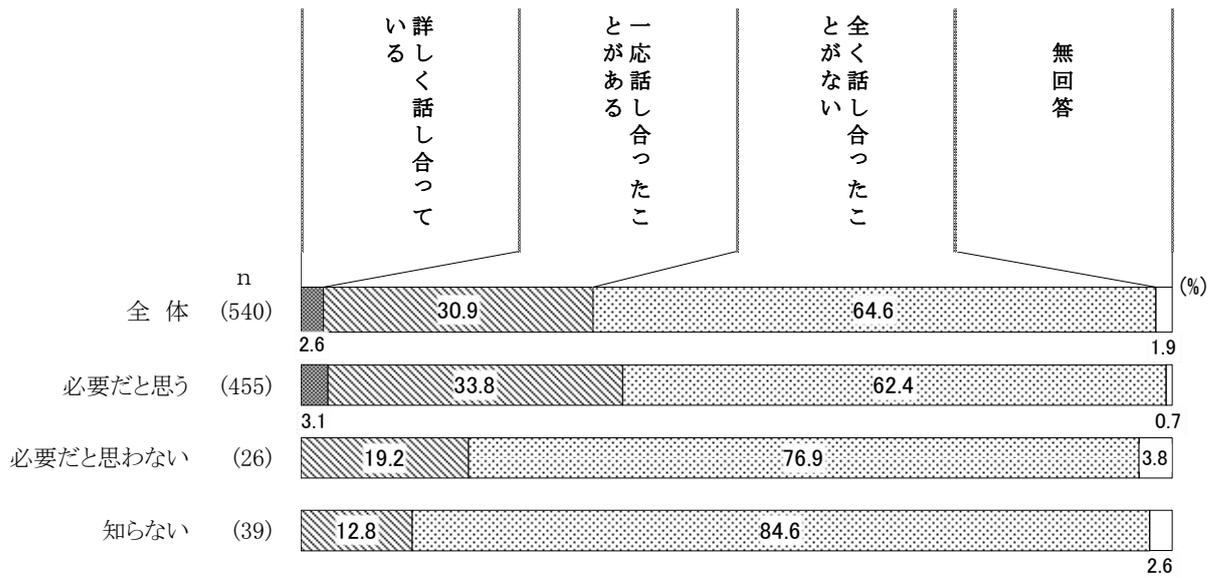


【認定者】



【第2号】

エンディングノートなどの作成についての考え別



高齢者の権利擁護について

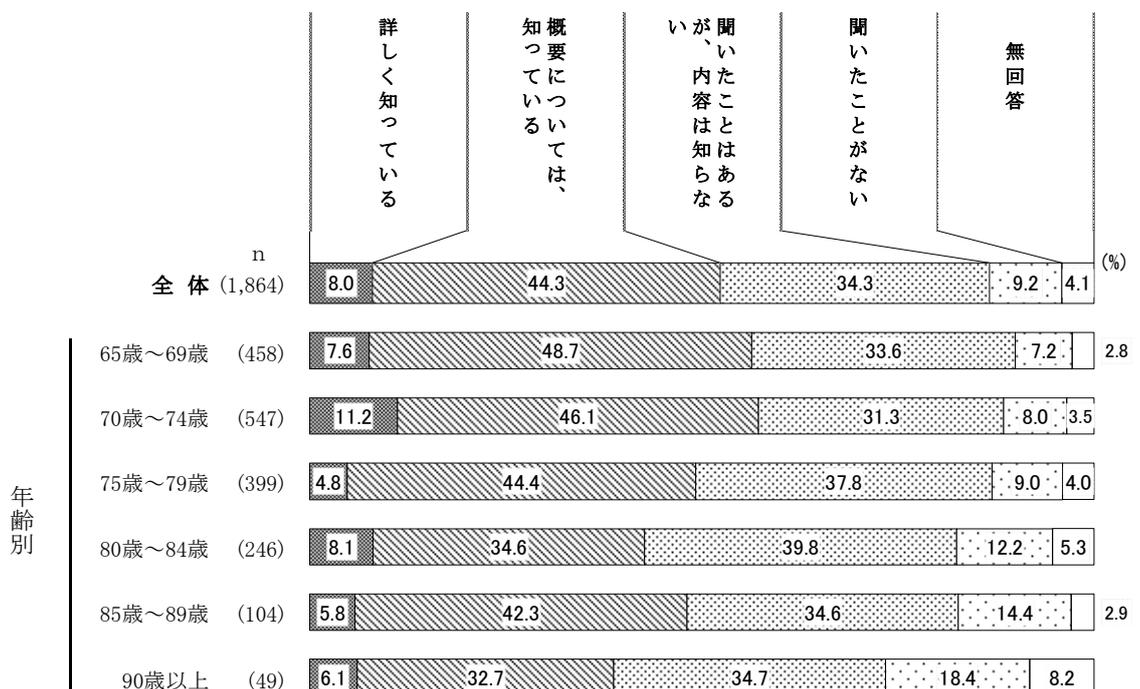
■ 区民向け調査結果 ■

<成年後見制度の認知度> 【基本】問30

問 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

◆ 成年後見制度の認知度について、年齢別にみると、年齢が高くなると《聞いたことがない》の割合が高い。

<図表 30> 成年後見制度の認知度



新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査報告書 概要版

印刷物作成番号 2020-6-2912

令和2年（2020年）3月

【発行】 新宿区 福祉部地域包括ケア推進課

〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

電話：03-5273-4193（直通）

FAX：03-6205-5083

※この印刷物は、業者委託により、200部印刷製本しています。その経費として、1部あたり220円(税込)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。